

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		10 02 03	中期総合計画主要施策番号		1-08,2-07,5-06		担当課	部・課	林務部 信州の木振興課	
事業名		特用林産産地振興総合対策事業				内線		3235		
						E-mail		ringyo@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	山村における貴重な収入源である特用林産物の生産振興を主体として、生産者の収入確保と地域の振興を図る。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 生産者数、生産額ともに減少傾向にある。								
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・生産者の栽培技術、経営戦略等が現在の市場に適合していない場合がある。 ・経営規模が零細で、適時適切な資金投入ができない場合がある。								
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 特用林産物の生産技術の向上や経営安定を支援する必要がある。								
	事業内容	・長野県特用林産振興会ほかが行う技術研修会、現地検討会等に対し補助する。(補助率:[県]1/2) ・特用林産の栽培に必要な諸資材整備に必要な資金を低利で貸付ける。(貸付限度額:100万円、利率:1.8%) ・長野県野菜生産安定基金協会が行う、なめこ生産者の収入補てんのための基金造成へ補助する。(定額補助)								
実施期間	S48 ~		根拠法令等	特用林産産地振興総合対策事業補助金交付要綱 ほか						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価	
	特用林産物の生産振興を行い、山村地域の活性化を図る。		長野県きのこ基本計画で各年度毎に設定される生産目標量を達成する。  乾しいたけ: 15t 生しいたけ: 900t なめこ: 5,600t			以下のとおりの生産実績が得られた。  乾しいたけ: 7.1t (47%) 生しいたけ: 998.1t (111%) なめこ: 5,334.8t (95%)			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	12,905	13,719	14,631	国庫・県単	国庫・県単		
	決 算 額 (B)		千円	12,698	13,698		実施方法	補助・貸付		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	3,334	2,320	2,206	歳出節別	貸付金:8,900 補助金:3,511 ほか (単位: 千円)		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.20	0.20	0.20	内訳等			
	概算人件費 (C)		千円	1,428	1,430	1,430				
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	14,126	15,128	16,061					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	研修会の開催		回	6	6	6	林業総合センターが開発した新たなきのこ栽培法の普及を研修会等により行い、種菌75袋(原木3,000本分)を供給した。			
	品評会の開催		回	1	1	1				
	特用林産振興資金貸付額		千円	7,400	8,900	7,900				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・山間地域における収入の手段としての特用林産物の重要性に変化は無く、これを振興すべき県の役割も重要である。 ・より有効な支援策を実施するために、「特用林産振興の手引き」を作成したので、これに沿ってより効果的、効率的な活動を展開する必要がある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		従来から、全体としての生産量の増大や産地の形成、需要の拡大等を基本に特用林産物の振興を図っているが、改めて特用林産物の本来の特性を見直し、「手引き」を作成した。地域毎の多様な品目を少量でも市場(直売所等)へ出荷し、収入を得る、個々の生産者への支援に力点を置いていく。							